1. 家畜の飼育頭数
2. にわとりの飼育羽数
3. 養蚕による収繭量

1. 家畜の飼育頭数

1970 年（沖縄県は 1971 年）の乳用牛の飼育頭数は 162.7 万頭である。これを都道府県別にみると、北海道の 44.9 万頭がもっとも多く、以下岩手県 7.1 万頭、千葉県 6.9 万頭、群馬県 6.7 万頭、兵庫県 6.3 万頭である。

乳用牛の飼育農家は、28.1 万戸である。乳用牛の 1 戸あたり平均飼育頭数は、5.8 頭で、1960 年の 1.9 頭の 3.1 倍に増加した。全農家にたいする乳用牛飼育農家の割合は、5.2% で、都道府県のなかで最高は北海道の 22.7% である。2 歳以上の乳用牛の飼育頭数は 111.3 万頭、飼育農家は 21.6 万戸である。

1970 年（沖縄県は 1971 年）の肉用牛の飼育頭数は 168.5 万頭である。これを都道府県別にみると、鹿児島県の 23.5 万頭がもっとも多く、以下宮崎県 14.8 万頭、熊本県 10.8 万頭、大分県 7.8 万頭、岩手県 6.8 万頭である。

肉用牛の飼育農家は 83.9 万戸で、肉用牛の 1 戸あたりの平均飼育頭数は、2.0 頭である。全農家にたいする肉用牛飼育農家の割合は 15.5% で、都道府県のなかで最高は宮崎県の 55.1% である。飼育頭数の内訳は、子畜を生産することをおもな目的としているメス牛 41.2%、肥育牛すなわち自家で肥育し肉用として販売することをおもな目的としている牛 34.5%、自家で生産し子牛のまま、または数ケ月育成して販売する予定の子牛 16.8%、役牛、種オス、採肥用の牛などその他 7.5% である。

1970 年（沖縄県は 1971 年）の豚の飼育頭数は 461.6 万頭である。これを都道府県別にみると、茨城県の 47.9 万頭がもっとも多く、以下千葉県 25.6 万頭、群馬県 21.1 万頭、北海道 20.5 万頭、愛知県 20.3万頭である。

豚の飼育農家は 39.5 万戸で、1 戸あたり平均飼育頭数は 11.7 頭である。全農家にたいする豚飼育農家の割合は 6.7% で、都道府県別のなかで最高は沖縄県の 34.4% である。飼育頭数の内訳は、子取用に飼育している 6 ケ月以上のメス豚 13.9%、肥育豚すなわち自家で肥育し肉用として販売する目的の豚 53.4%、売る予定の子豚などその他 32.7% である。

1970 年（沖縄県は 1971 年）の馬の飼育頭数は 14.4 万頭である。これを都道府県別にみると、北海道の 9.9 万頭がもっとも多く全国の 68.6% をしめる。

馬の飼育農家は 11.5 万戸で、1 戸あたり平均飼育頭数は 1.3 頭である。農耕馬あるいは輓馬として用いられることが少なくなり、馬の飼育頭数は大幅に減少した。

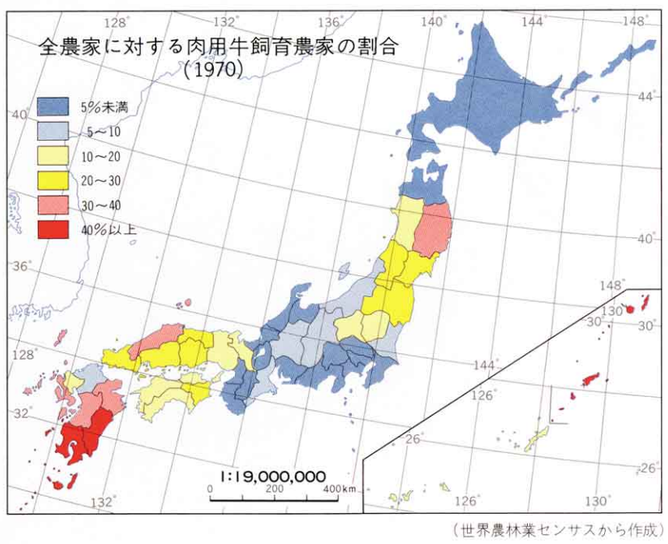
その他、めん羊の飼育頭数は 2.1 万頭、やぎの飼育頭数は 19.3 万頭である。

〔凡例と作図の要点〕

この図は農家の飼育する家畜の頭数を表示した。農家以外の農業事業体の飼育頭数は、乳用牛 2.4 万頭、肉用牛 1.6 万頭、豚 17.7 万頭である。

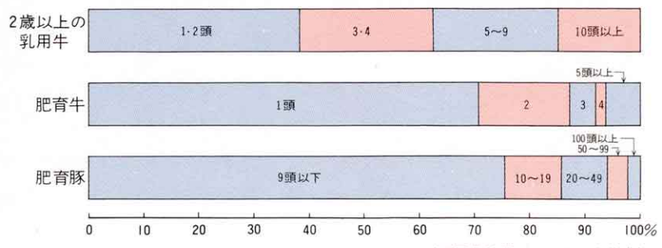
〔資料〕

1．農林省，1970 年世界農林業センサス
2．農林省，1971 年沖縄農業センサス
3．農林省，第 49 次農林省統計表



（世界農林業センサスから作成）

家畜の飼育頭数別農家数の割合（1970）

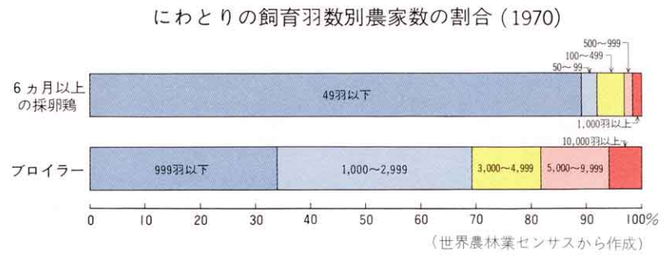


（世界農林業センサスから作成）

2. にわとりの飼育羽数

1970 年（沖縄県は 1971 年）のにわとりの飼育羽数は 1 億 4310 万羽で、そのうち採卵鶏 9530 万羽、ブロイラー（焼肉用若鶏）4780万羽である。これを都道府県別にみると、採卵鶏は、愛知県の 797 万羽がもっとも多く、以下兵庫県 329 万羽、静岡県 300 万羽、福岡県 300 万羽、埼玉県 274 万羽であり、ブロイラーは、兵庫県の 500 万羽がもっとも多く、以下茨城県 269 万羽、静岡県 251 万羽、福岡県 239 万羽、徳島県 237 万羽である。

にわとりの飼育羽数別農家数の割合（1970）



（世界農林業センサスから作成）

採卵鶏の飼育農家は105.7万戸で、1 戸あたり平均飼育羽数は 90.2 羽である。採卵鶏の約 4 分の 1 は生後 6 ケ月未満、その残り 4 分の 3 は生後 6 ケ月以上のにわとりである。

ブロイラーの飼育農家は 1.6 万戸で、1 戸あたり平均飼育羽数は 2900 羽である。

〔凡例と作図の要点〕

この図は農家の飼育するにわとりの羽数を表示した。農家以外の農業事業体の飼育羽数は、採卵鶏 670 万羽、ブロイラー 1480 万羽である。

〔資料〕

1．農林省，1970 年世界農林業センサス
2．農林省，1971 年沖縄農業センサス
3．農林省，第 49 次農林省統計表

3. 養蚕による収繭量

1970 年の養蚕による収繭量は 11.2 万 t である。これを都道府県別にみると、群馬県の 2.6 万 t がもっとも多く、以下長野県 1.4 万 t、山梨県 1.2 万 t、埼玉県 1.2 万 t、福島県 1.1万 t である。養蚕農家数は 39.9 万戸で、1 戸あたり平均収繭量は 280 kg である。桑の栽培面積は 16.3 万 ha で、そのうち群馬県の 3.1 万 ha が都道府県のなかでもっとも多い。

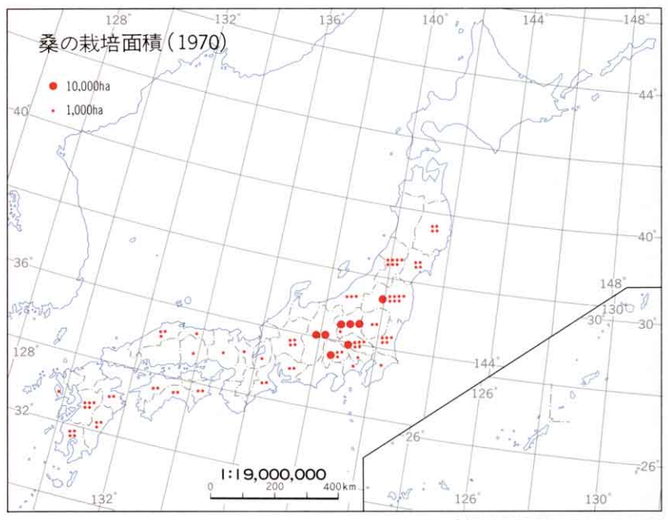
生糸の需要が増加しているのにくらべ、生産が停滞しているため、1966 年からわが国の生糸輸入量が輸出量を上まわるようになり、1971 年に生糸の需要量の 23% は輸入に依存するようになった。

〔凡例と作図の要点〕

収繭量：繭検定時の重量である。くず繭のうち一般の使用に適さない薄繭（いわゆるビショ繭）は収繭量から除外している。

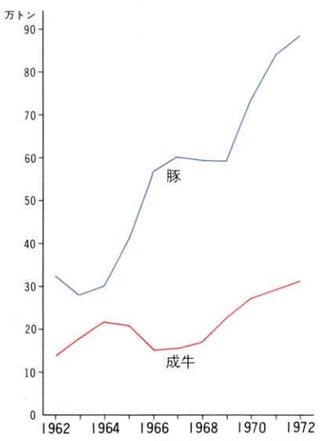
〔資料〕

1．農林省，昭和 43 年～45 年市町村別養蚕統計表



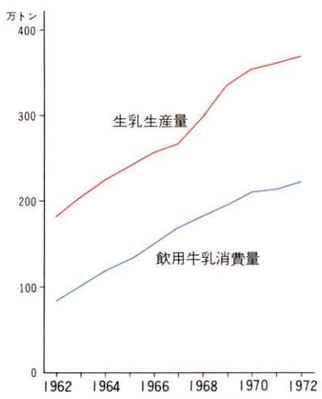
（市町村別養蚕統計表から作成）

成牛と豚の枝肉生産量の推移



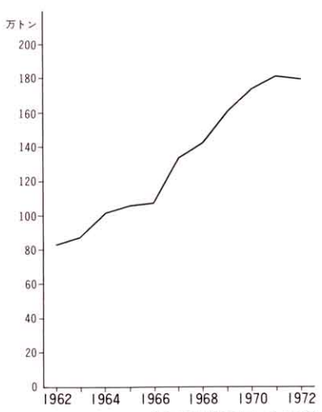
（農林省統計表から作成）

生乳生産量と飲用牛乳消費量の推移



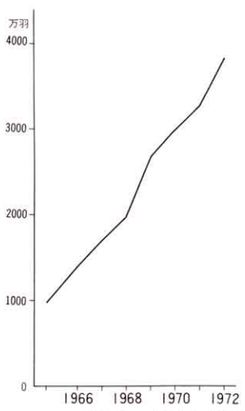
（農林省統計表から作成）

鶏卵生産量の推移



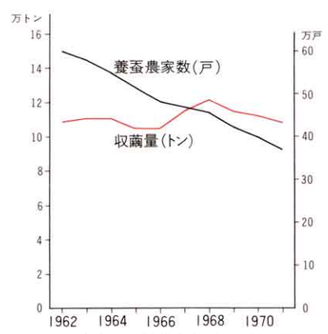
（農林省統計表から作成）

ブロイラー出荷羽数の推移



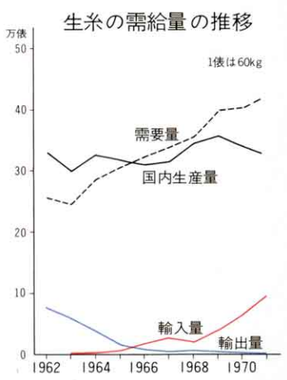
（農林省統計表から作成）

収繭量と養蚕農家数の推移



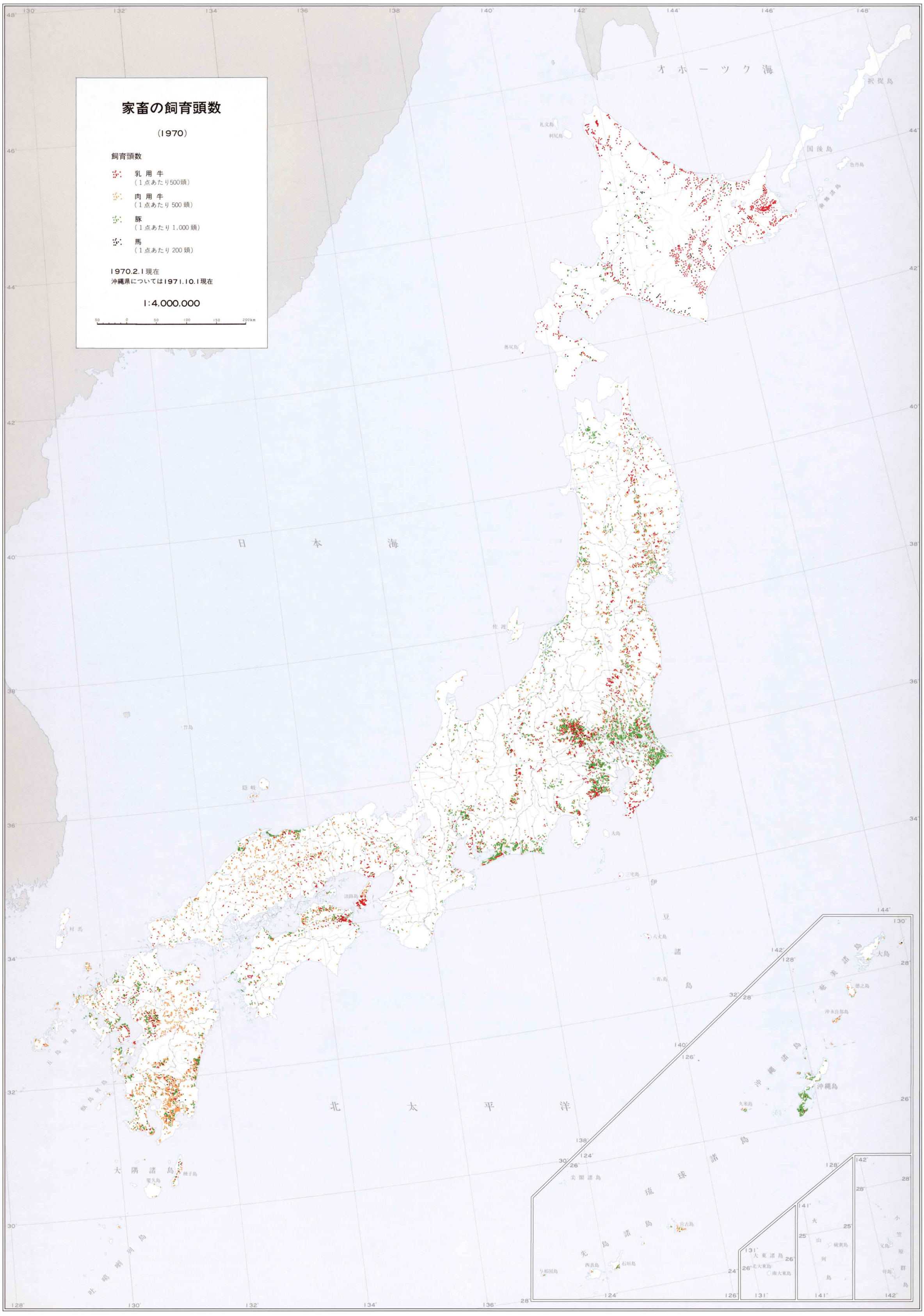
（市町村別養蚕統計表から作成）

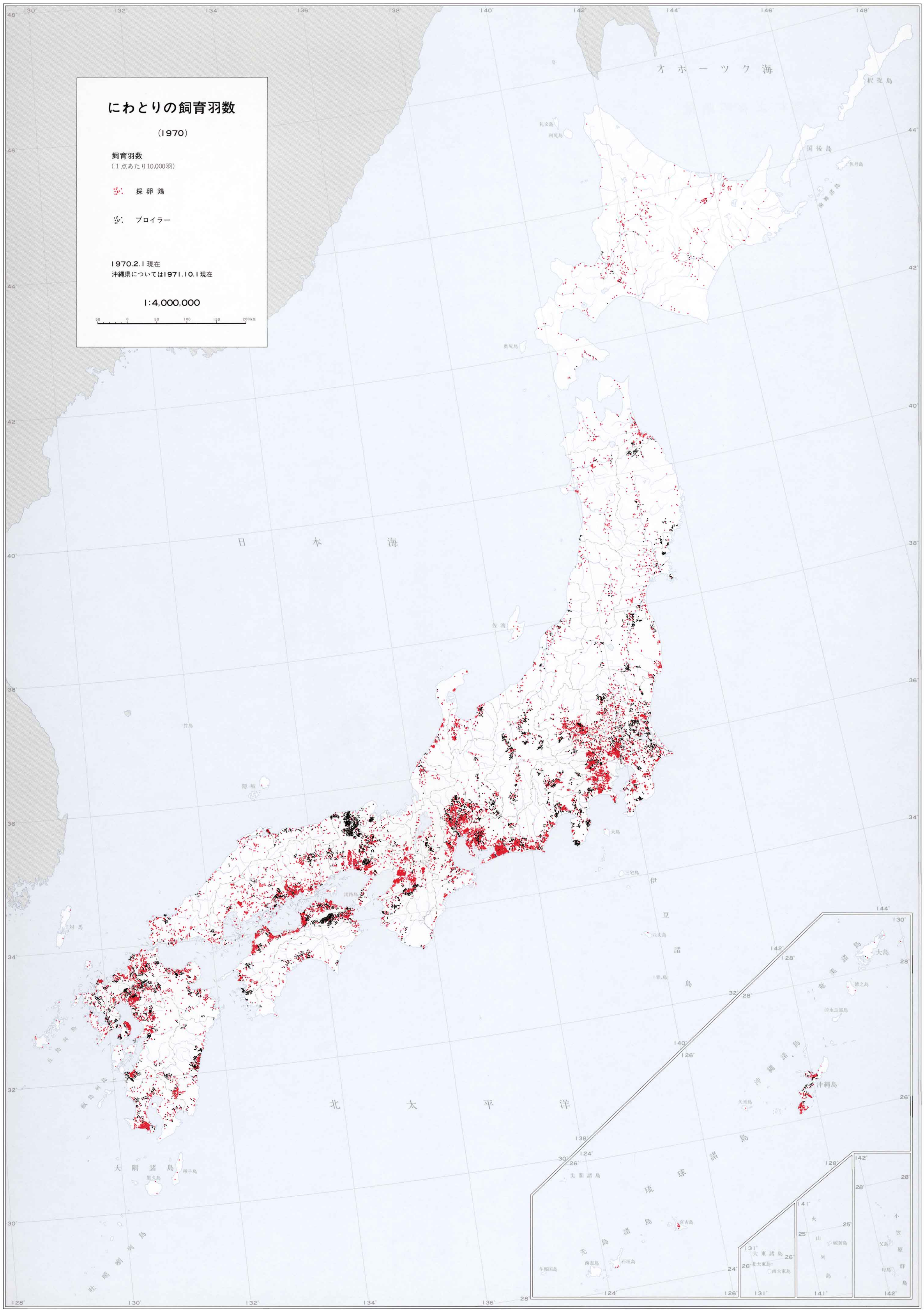
生糸の需給量の推移



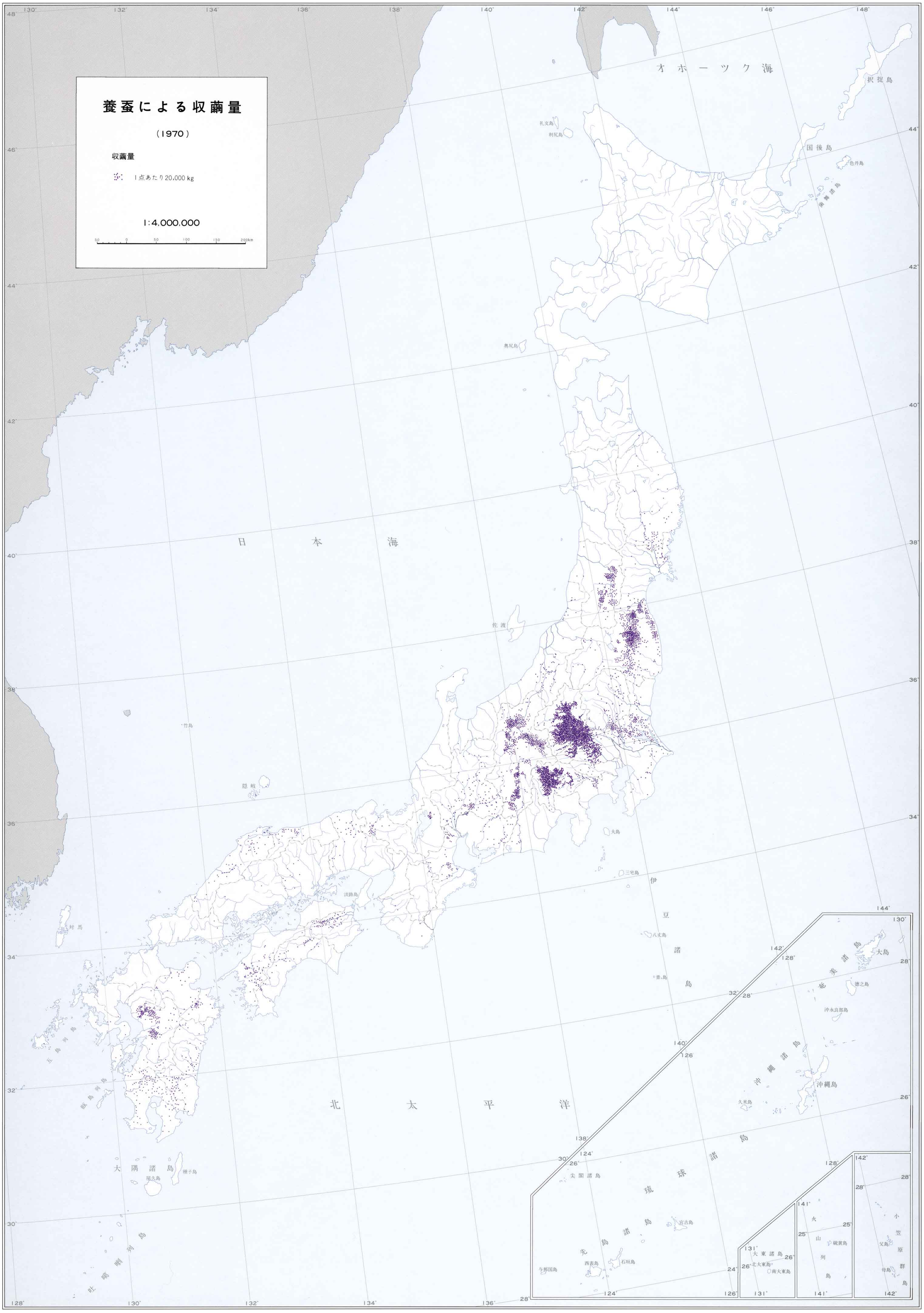
（市町村別養蚕統計表から作成）

37.1


家畜の飼育頭数
(1970)
飼育頭数
乳用牛
(1点あたり500頭)
肉用牛
(1点あたり500頭)
豚
(1点あたり1,000頭)
馬
(1点あたり200頭)
1970.2.1現在
沖縄県については1971.10.1現在
1:4,000,000
オホーツク海
日本海
北太平洋
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
礼文島
利尻島
奥尻島
佐渡
竹島
隠岐
対馬
淡路島
五島列島
壱岐島
大隅諸島
種子島
屋久島
吐噶喇列島
大島
三宅島
伊豆諸島
八丈島
青ヶ島
小笠原諸島
父島
母島
硫黄島
南鳥島
沖縄諸島
沖縄島
久米島
慶良間諸島
渡嘉敷島
座間味島
阿嘉島
琉球諸島
宮古島
石垣島
西表島
与那国島
尖閣諸島
大東諸島
北大東島
南大東島
火山列島
硫黄島
50 0 50 100 150 200km


にわとりの飼育羽数
(1970)
飼育羽数
(1点あたり10,000羽)
採卵鶏
ブロイラー
1970.2.1現在
沖縄県については1971.10.1現在
1:4,000,000
オホーツク海
日本海
北太平洋
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
礼文島
利尻島
奥尻島
佐渡
隠岐
竹島
対馬
壱岐
五島列島
甑島列島
大隅諸島
種子島
屋久島
吐噶喇列島
伊豆諸島
八丈島
青ヶ島
大島
三宅島
淡路島
沖縄諸島
沖縄島
久米島
慶良間諸島
大東諸島
北大東島
南大東島
宮古島
石垣島
与那国島
西表島
先島諸島
琉球諸島
奄美諸島
徳之島
沖永良部島
火山列島
硫黄島
父島
母島
小笠原群島

37.3


養蚕による収繭量
(1970)
収繭量
1点あたり20,000 kg
1:4,000,000
オホーツク海
日本海
北太平洋
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
礼文島
利尻島
奥尻島
佐渡
竹島
隠岐
淡路島
対馬
五島列島
甑島列島
大隅諸島
種子島
屋久島
吐噶喇列島
大島
三宅島
伊豆諸島
八丈島
青ヶ島
小笠原諸島
父島
母島
硫黄島
火山列島
大東諸島
北大東島
南大東島
沖縄諸島
沖縄島
久米島
慶良間諸島
沖永良部島
与論島
奄美諸島
徳之島
宮古島
石垣島
西表島
与那国島
尖閣諸島
先島諸島
琉球諸島